

インターネットトラブル事例集 (2018年度版)



総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html



はじめに

インターネットやアプリは、安全に正しく使うことができればとても役立つ便利なものです。しかし残念ながら、誹謗中傷やいじめの温床になったり、事件や犯罪に巻き込まれるきっかけになったりしていることも事実で、子供たちが被害者だけではなく、加害者になるケースさえ生じています。

これからの時代を生きる子供たちにとって、情報活用能力は不可欠、避けて通ることはできません。ですから、インターネットや、スマートフォンを始めとするデジタル機器、SNSなどのコミュニケーションツールを「賢く安全に使うための知識・知恵」や「ルールを守って使える心」を育むことが大切です。本事例集が、教育や子育ての現場で、子供たちの情報活用能力を育てる一助となれば幸いです。

学校の授業などでご活用いただくために

学習、指導、話し合い等に活用したいというご要望にお応えして、総合学習の時間や情報の授業はもちろん、アクティブラーニングの教材としてもお使いいただける構成（1ページ1事例）に。上段が事例の内容、中段が学びの進め方、下段が解説とアドバイスとなっています。

事例ごとに印刷してワークのための題材としたり、PDFファイルを部分拡大してスクリーン等に投影するなど、いろいろ工夫しながら積極的にご活用ください。

実際に起きたトラブルです。まず初めに、ここをじっくりと読ませてみましょう。

考えてみよう！

事例をより深く考えるための問いかけ方を示してあります。

A～Cの小見出しは、考える上でのヒントです。文章部分は、助言や発表・発言時のコメントとしてお使いください。

ワンポイントアドバイス

各トラブルを予防・回避するための指導のポイントです。

◆ 安易な情報提供

14 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害

友人の間だけで回した内容だったのに

ネットで知り合った人に待ち伏せされた



メッセージアプリで、学校の友人からハトンが回ってきました。Qさんは質問内容を読み、軽い気持ちで名前や年齢、学校名などを答えました。



ネットで知り合った男性に待ち伏せされたQさん。以前その人にメッセージアプリのアカウントを載せていたために、ハトンの情報が見られていたのです。

考えてみよう！

「仲間内のやりとりを、知らない人に見られていた」「プライベートな情報を、自分が知らない「友だちの知り合い」が見ていた」としたら、どんなことが起きるでしょう？

A. 公開範囲は設定した？

メッセージアプリは仲良ししか読めないから大丈夫だと思いき、設定を確認せず使っている人がいっぱい。友だち追加設定のほか、タイムラインの非公開や公開範囲設定も忘れずに！

B. 誰かとつながる怖さ

思わぬ人とのつながることによる危険性いろいろあります。SNSでつながると、知らない人とのつながりも増えます。登録している仲間がいれば、「ハトンの友だちなら安心」と思われて、危険は広がります。

C. 読める人を想像して投稿

基本は、プライベートな情報をネットに載せないこと。どうして載せないといけないから、誰が読めるかを想像して投稿。ネットのみの友人が欲しくても、個人情報の投稿には要注意。

解説 ハトンの内容、読めるのは本当に親しい友人だけ？

メッセージアプリのタイムライン(日常のつぶやきを投稿できるサービス)などを利用した「ハトン」というものがはやっていきます。ハトンは、定型の質問に答えながら次の人へと回していく遊びのようなもの。一般的なチェーンメールとは違ってほとんど悪意はないのですが、公開範囲設定をしていなければ、友だち登録しているすべての人が読めるため、トラブルに発展することも少なくありません。

身近な友人同士、お互いに個人情報や安易な「回答」は「ハトン」に掛ければ、トラブルの火種は生じません。さらに、ネットで一書二書回して友だち登録した相手は、タイムラインを非公開の設定にしておきましょう。



コミュニケーション系アプリの多くは、読んでもいい人の設定ができます。設定の状態を確認すると共に、個人情報の扱いへの注意喚起を。

上半分のみを配布し、グループワークの題材にすることもできます。

左側の原因を読み、それによって生じたトラブル(右)を予想するやり方も可能です。

参照したい事例がある場合、番号を記載してあります。

各トラブルに関する用語の意味や知っておきたいこと、気をつけたいことなどを簡単に解説してあります。

解説

目次

●はじめに&学校の授業などでご活用いただくために ——— 1

特集1

正しく知っておきたい！① ——— 3
子供たちのインターネット利用の現状

特集2

正しく知っておきたい！② ——— 5
危険なアクセスを防ぐフィルタリング

インターネットトラブル事例 本事例集をご活用いただくために 6

日常に潜む危険

- ① スマホの過度な使用による日常生活への支障 ——— 7
- ② 悪意あるWi-Fiスポットを利用したことによる情報流出 ——— 8
- ③ メッセージアプリ内の会話による悪口や仲間外れ ——— 9

軽率な行動(違法行為)

- ④ なりすまし投稿による誹謗中傷 ——— 10
- ⑤ 個人や学校などへの脅迫行為 ——— 11
- ⑥ アップロードとダウンロード ——— 12
- ⑦ 自分で作成したウイルスをネットに公開 ——— 13
- ⑧ コミュニティサイトなどを使った未成年によるアプローチ ——— 14

取引によるトラブル

- ⑨ フリマサービスやオンラインショッピングでのトラブル ——— 15
- ⑩ ゲームに夢中になっている最中に生じた高額課金 ——— 16

悪意のしかけ 巧みなワナ (セキュリティ)

- ⑪ 自ら「ログインID」と「パスワード」を教えたことによる被害 ——— 17
- ⑫ ワンクリック詐欺やウイルスなどによる不当請求 ——— 18
- ⑬ 不正アプリやウイルスによる個人情報漏えい ——— 19

安易な 情報提供

- ⑭ 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害 ——— 20
- ⑮ 旅行中の写真投稿や書き込みによる空き巣被害 ——— 21
- ⑯ SNSなどへの投稿内容から個人が特定 ——— 22

信頼から 被害へ

- ⑰ SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害 ——— 23
- ⑱ 自画撮り写真の交換に端を発した脅迫被害 ——— 24
- ⑲ 心のよりどころだったSNS上の知人による誘い出し ——— 25
- ⑰ ⑱ ⑲ の危険を回避するために ——— 26

特集1

正しく知っておきたい！①

子供たちのインターネット利用の現状

流行のアプリ等を
追いかけるより **スマホの使い方や心理・感覚などに目を向けてみましょう**

子供たちに見られる現状や傾向に、どれくらい気づいていますか？

- テレビを見る時間より、ネットを使用している時間のほうが長くなっている
- テレビ番組を「テレビ」ではなく「スマホ」で視聴する傾向がみられる
- 定期考査や受験のための勉強に、スマホやタブレットを活用している
- 「スマホばかり」「スマホやめなさい」等の言葉に、ストレスを感じている
- 行動・言動・考え方等に、ネットから得た情報の影響を受けやすい
- 都合のいい情報を好み、都合の悪い情報を排除・無視する傾向がある
- 欲しいモノ・やりたいコトの情報に困まれ、小遣いが足りないと感じている
- ネット上で金銭やポイントを使う・受け取る・貯めることに違和感がない
- 写真や動画を共有することも、友達とのコミュニケーションになっている
- 同世代の子のSNSを見て、コンプレックスを感じてしまうことがある
- 1つのSNSに複数のアカウントを持ち、上手に使い分けをしている
- 同じ趣味や共通の話題で共感しあえる人を信用する傾向がある

みなさん自身が既に気づいていたことは、いくつくらいありましたか？「言われてみれば、なるほどと思った」という項目もあると思います。もちろん、年齢差や個人差もあるため、全ての子供に当てはまるわけではありませんが、特に仲間とのコミュニケーションが欠かせない中高生の場合、友達同士影響し合うことも多いため、似たような傾向が現れる可能性も高いと考えられます。

本事例集で取り上げた19件のトラブル事例も、上記の現状や傾向を重ね合わせながらお読みいただくと、より理解が深まります。学校や家庭では、大人目線ではなく子供の気持ちを想像しつつ話し合みましょう。

スマホは勉強や学習補助にも使われます、思い込みで叱らないで！



インターネットが当たり前にある時代に生まれて育った世代は、ネットを活用する術をいろいろ心得ています。勉強や試験対策にSNSや動画サービスを利用する子も増えており、「スマホを操作している」イコール「遊んでいる」と決めつけられ叱られると、腹が立つ・イライラするといった声も聞こえてきます。

また、ゲームで遊んでいることと、友人とのメッセージ交換を同じように扱うのもダメ。「いつまで遊んでいるの？」と「いつまで長話しているの？」との違いに気づけば、声のかけ方も違ってくるのではないのでしょうか。

ニュースもスマホで読む時代、新聞を読んでいるならOKなのに、スマホはダメ——そんな態度が続けば、子供の心が離れていってしまうかも。

気になるときは興味を持って尋ね、子供の使い方の把握に努めましょう。ネット関連の話題で会話をするのも、使い方を知るための有効な手段です。

ネットで会話を
楽しみたい

LINE

+メッセージ

Skype

他

ネットは子供たちの コミュニケーションの場

「発信した情報は拡散し、広く一般に共有される」のがインターネット。でも、子供たちは公の空間ではなく“プライベート空間”のように使うため、トラブルも起きるのです。そこで、どんなシーンで何をどう使うか、問題点は？等をご紹介します。

今の思いや
気持ち・考えを
つぶやきたい

Twitter

Facebook

Instagram

他

リアルなおしゃべりもネットを使う

『無料通話アプリ』『メッセージアプリ』『チャットアプリ』等と称され、仲間が多い世代の必需品。**連絡先を知る相手との1対1またはグループでのトークは非公開が基本**。閉じた環境のため安全な反面、悪口やいじめの温床になることも。一部のチャットアプリに起因するトラブルも増えている。

広く多くの人たちと情報交換

『SNS』の王道的サービス。基本的には公開で使われるが、**非公開設定も可能**。有名人の投稿を読むために登録すれば当然投稿も可能となる。不適切な投稿で炎上、ダイレクトメッセージ機能で直接やりとりしてトラブルに発展するなど、利用者が不特定多数なだけに気をつけたい点は多い。

自分を表現するステージ？

作品や思い出の**アルバムから“自己表現の場”へと目的が変わりつつあるサービス**。権利を気にせず使えるBGM等、10代が好む機能がいろいろ。アイデア次第で評価されることから撮影に夢中になり、生活に支障が出るケースも。顔や場所等の公開に関するリスクを考えながら使わせたい。

Instagram

TikTok

Snow

Mix Channel 他

画像や
写真・動画を
見てほしい

その他、こんな現状にも 目を向けてみましょう

フリマ等への「夏休みの宿題の出品」が禁止になりましたが、何でもネットで手に入ることに年齢を問わず慣れが生じています。フリマでもゲームでも、利用しながら素性のわからない相手とやり取りできる時代、ネット上での行動・言動をいま一度真剣に考えてみる必要があります。

YouTube

ツイキャス

ニコニコ動画

他

動画を見たい
& 配信したい

【注】で囲まれた名称は、10代の子供たちに使われているサービスやアプリの一例です。各事例を読む際の参考にしてください。

子供に使い方を注意するのなら 大人たちもちゃんと使ってほしい！

「子供にダメだと言っているクセに、大人はやっている」という苦言は、数多くの小中高生から聞こえてきます。歩きスマホや食事中の操作、休みの日にはゲーム三昧という大人を見ていれば、「自分だってやっているのに、ズルい！」と反発されても仕方ありません。

自宅の中や子供の前はもちろんですが、家の外でも節度ある使い方を心がけましょう。大人は、子供の模範となる行動を！！



ワンポイント
アドバイス

子供の利用状況を観察し、ときには長時間利用による身体への影響を話し合ってみるなど、家族みんなで正しい使い方を工夫しましょう！

特集2

正しく知っておきたい！②

危険なアクセスを防ぐフィルタリング

18歳未満の子供が使うデジタル機器とフィルタリング

インターネット利用がきっかけで子供がトラブルや事件・犯罪に巻き込まれてしまうケースは増えており、内容も多様化しています。**安全かつ適切に利用するためには、知識・経験・判断力はもちろん、規範意識（＝ルール・モラル・マナーを守る意識）、自制心（自分をコントロールする心）を育む**ことは待ったなしの状況ですが、大人でもトラブルにあってしまうのですから、子供にスマホ等を使わせるなら年齢・知識・判断力に応じた手助けが必要です。

「フィルタリング」は、**好奇心や楽しさによる冷静さを欠いたアクセスに適度なブレーキをかけるだけでなく、見た目ではわかりづらい悪意の仕掛けがあるサイト等へのアクセスを防いでくれる頼もしいツール**です。犯罪被害児童の9割以上がフィルタリングを設定していなかったというデータもあります。大人のために作られた機器を使う子供たちが意図せずトラブルに巻き込まれてしまうようなことが生じないよう、フィルタリングを上手に活用しましょう。

法改正で、18歳未満は「購入・機種変更時のフィルタリング有効化」が義務に

青少年インターネット環境整備法^{*}（平成21年4月施行／平成30年2月改正法施行）

携帯電話会社や格安スマホ会社(MVNO)とその契約代理店には、新規の携帯電話回線契約時および機種変更・名義変更を伴う携帯電話回線契約の変更・更新時に、次のような義務が課せられています。

青少年確認

契約締結者又は携帯電話端末の使用者が18歳未満かどうか確認する

フィルタリング説明

- ①青少年に有害な情報の閲覧による危険
- ②フィルタリングの必要性とその内容について保護者又は青少年に説明する

フィルタリング有効化措置

契約とセットで販売される携帯電話端末等について、販売時にフィルタリングソフトウェアやOSの設定を行う

これに伴い、子供の利用状況を適切に把握すると共に、**18歳未満が使用者である旨を申し出ること、フィルタリングの説明を受けること、フィルタリングソフトやOSの設定を行うことなどが、保護者の役割**となります。

^{*} 青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律

フィルタリングを上手に活用しましょう！

「子供を信頼しているから」という理由で解除してしまう保護者もいるようですが、『**信頼**』と『**安全**』とは別問題です。また、「子供が使いたいサービスやアプリが使えない」という理由も多いようですが、**フィルタリングを外さなくても、使いたいサービスやアプリを個別に利用許可することができます。**

店頭で初期設定する場合、子供にパスワードが伝わらないように気をつけてください。当然、これは、ご家庭で設定する場合も一緒です。誕生日や記念日などの想像しやすいパスワードもNG。設定変更や詳細設定はパソコンからでも手軽にできますが、パスワードの管理は必ず保護者が行ってください。

導入されていない機器を使う場合はインストールする

店頭やご家庭で初期設定を行う

フィルタリングのレベルを選択

必要に応じて詳細設定を行う

成長に合わせて設定を変更！

保護者の代わりに子供のネット利用を見守る

NTT docomo、au(KDDI)、SoftBankは『あんしんフィルター』という名称で提供。その他、フィルタリングアプリはたくさんあります。スマホだけでなく、ゲーム機やタブレット、子供に貸すスマホ、おさがりのスマホ等にも、フィルタリングを！

【注意】いずれの機器も、各社提供サービスを使う、PCと同じものを使う、その他任意のフィルタリングを使う等、保護者の方が適切にご判断ください。

インターネットトラブル事例

スマートフォンやインターネットが
どんなに便利になっても
悪用しようとする人がいる限り
そこに潜む危険はなくなりません。

ネットを健全に賢く使う力を育むために
実際にあったトラブルを正しく知り、
自分たちに“何ができるか”を話し合ってみましょう。

実際のトラブルからは、学べることがいっぱい。
学校で、ご家庭で、友人同士や地域で、
子供といっしょに考えてみませんか？



1 スマホの過度な使用による日常生活への支障

友人とのトークが連日深夜まで続き

遅刻や居眠りをするようになってしまった



メッセージアプリで友人とのやりとり(トーク)をするのが大好きなAさん。話を終わらせるタイミングがわからず、夜遅くまでスマホを使う毎日でした。



朝起きるのがつらくなり、眠たくて授業にも集中できなくなりました。体調や成績にも影響が出ているのですが、友人とのトークはやめられません。

考えてみよう!

友人関係が何より大切な時期ですが、生活習慣の乱れや睡眠不足は、健康や学習にさまざまな影響を及ぼします。適切に利用するためにできる工夫はありませんか？

A. 睡眠について調べてみる

体の成長を促すだけでなく、体調を整えたり、疲労回復にも不可欠な「成長ホルモン」。睡眠との間にはどんな関係があるのか、調べてみると気づくことがたくさんあるはずです。

B. ルールを作ってみる

トークを終わらせるのが難しいというのは、多くの子供の悩み。終わりの言葉を決める、〇時までと決めるなど、自分たちで話し合ってルールをつくると、コントロールしやすいようです。

C. 時間の使い方を見直してみる

宿題、食事、入浴 etc...帰宅後はやることだらけ。習い事や塾もバラバラで遅い時間しか揃わない。だったらその日は早く寝て、翌朝“早起きトーク”をするというのも一案です。

解説 四六時中、気づけばスマホを手にはしている

学びに、連絡に、趣味や娯楽に、スマホのある生活は当たり前になりつつありますが、アイテムやスタンプ購入に必要なポイントを得ようと広告動画等を見る子も増え、スマホを使わない時間は激減しています。また、何をしてもメッセージが気になる、歩行中も画面から目が離せない等、依存の兆候も否めません。

自分をコントロールできずスマホが手放せなくなると、日常生活に支障をきたすだけでなく、健康面でもマイナスです。適切な使い方ができるよう、利用のルールを話し合い、保護者が利用状況を把握するよう心がけましょう。利用時間を制限するアプリを利用することも一つの方法です。

ワンポイントアドバイス

学校行事や受験など「いざ!」というときに実力を出せなかったり体調を崩したりして後悔しないよう、スマホ利用を自制する力を育てましょう。

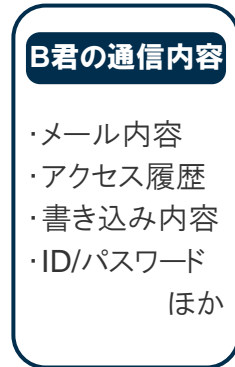
2 悪意あるWi-Fiスポットを利用したことによる情報流出

パスワード不要の無料Wi-Fiスポットで



B君は、パスワードもいらず無料でネットに接続できる場所を近所に発見。家の電波が不安定なので、よくその場所に行ってネットをしていました。

通信内容が盗み見られてしまった



そのWi-Fiスポットは、他人の情報を盗むために悪意で設置されたものでした。B君の通信内容は、ずっと盗み見られていたのです。

考えてみよう！

Wi-Fiが自由に使える場所が増えていますが、ネットを使いたいという人の思いを利用した悪質なWi-Fiスポットもあります。安全に使うために気をつけたいことは？

A. 野良Wi-Fiのワナ

パスワードがいらぬ無料Wi-Fiスポットの中には、悪意で設置されたものもあります。判別が難しいため、個人情報を入力等、悪用されて困る情報のやり取りをしないよう注意しましょう。

B. 接続前に安全性の確認を

安全性の低いWi-Fiスポットがリストの最初に表示されることもあるので、名称や鍵マーク🔒等の確認を習慣にしましょう。普段よく使うWi-Fiサービスを登録しておく、より安心です。

C. いざ！という時のために

緊急災害時、携帯電話会社の電波が使えなくなることもあります。通学路や自宅近くで安全なWi-Fiを提供している場所をいくつか知っておけば、命をつなぐことに役立ちます。

解説 ラッキー！が一転、個人情報の流出や悪用の恐れもある

スマホは、携帯電話事業者の回線(3G/4G/LTEなど)だけでなく、Wi-Fiスポットを使ってネットに接続することができます。でも、自宅に無線LAN環境が作れるように、Wi-Fiスポットは誰にでも設置できます。

スマホやゲームをしたくてパスワード不要の無料Wi-Fiを探す子もいますが、**通信傍受やID・パスワードなどを盗むために設置する人も**いることを忘れてはいけません。自分で見分けることが難しい年齢の子には、「Wi-Fiステッカー※」を確認する方法が有効です。いずれにせよ、スマホのWi-Fi接続設定が自動になっていると、悪意のWi-Fiスポットにつながってしまう危険もあるので、設定を見直すことも大切です。

ワンポイントアドバイス

悪意で入手したものでなくても、たまたま知った他人のIDやパスワードを勝手に使ってはダメ。安全なWi-Fiの使い方と併せてご指導ください。

※公共施設や店舗等に貼ってある、Wi-Fiが使えることを示すステッカー。緊急災害時にも役立つので、身近なWi-Fiスポットを調べてみましょう。

3 メッセージアプリ内の会話による悪口や仲間外れ

うっかり「？」をつけ忘れたために

一方的にグループから外されてしまった



クラスの仲良し数人でやっているグループトーク。Cさんは、メッセージの最後に「？」をつけ忘れたまま、スマホを置いてお風呂に入ってしまった。

お風呂上りにスマホを見ると、「ひどい！」などのメッセージが。誤解を解こうとしても、反応なし。Cさん以外のメンバーは別グループを作り、Cさんを外したのです。

考えてみよう！

会話の流れが速く、ささいなことでも誤解や感情の行き違いが生じやすいグループトーク。トラブルに発展することなく、仲良く使い続けるために気をつけたいことは？

A. 誤解を与えないために

「？」と「！」では意味が真逆になることもある文字の会話。記号やスタンプ、(^)のような顔文字を活用して、気持ちが正しく伝わるよう工夫しながらやり取りすることが大切です。

B. 速くて複雑な会話だから

グループトークはテンポが速く、複数の会話が並行して飛び交います。途中参加をすると、流れをつかむのは至難の業。でも、曖昧なままやりとりをするとトラブルに発展することもある。

C. ムカツ！イラッ！としたら

どんな会話でも、嫌な気持ちになることはあります。そんなときは感情をすぐにぶつけず、一呼吸して考えて。文字だとケンカになりそうなら、電話で話してみるのも良い方法です。

解説

グループトークに起因する“いじめ”も、パターンはさまざま

スマホやSNSの普及で新たな社会問題となったのが、いわゆる“SNSいじめ”^{*}。特定の子に対し、多数で追い詰める、その子の発言だけ無視、その子が不快な写真や動画をグループで共有、その子以外と新たなグループを作り悪口を言う、その子をグループから突然外すなど現象はさまざまですが、ささいなきっかけや出来事からいじめに発展することもあります。特にグループトークの場合、メンバー以外は内容を読むことができないため**トラブルの発見が遅れがち**。通報・相談のできるSNSやアプリも有効な対策ですが、子供たちの日々の様子や会話から**変化・違和感を察知することが早期発見・解決のカギ**となることを忘れずに。

ワンポイントアドバイス

周囲と違う意見が言いづらい雰囲気(同調圧力)が、いじめに発展するケースも。雰囲気に流されてしまわないよう、思いやりの心を育てましょう。

^{*}グループトークを含む“SNS”によるやり取りで生じるいじめ(悪口、仲間外れ、集中攻撃、さらし行為等)のこと。大人の間でも生じている。

4 なりすまし投稿による誹謗中傷

他人になりすまして書き込んで



△校のD君

△校のD君は、○校のE君がどうしても気に入らず、**F君になりすまし、ネットに「○校のE君が万引きをしている」と、ウソの書き込み**をしました。

書き込んだ本人が特定された



○校のE君

○校のF君

E君が問い詰めた結果、F君は書き込んでいないことが分かりました。よく調べてみると、△校のD君の仕業だと判明。**学校間トラブルに発展**しました。

考えてみよう！

誰かになりすますことも、誰かを陥れるような書き込みをすることも、違反行為です。万が一、こういったトラブルに気づいたとき、できることはありますか？

A. やるという子がいたら

やって得になることは、何一つありません。また、ネットだからバレないということもありません。その子の怒りの気持ちを受け止めてあげつつ、やめるように優しく諭すのがベストです。

B. 被害にあった子がいたら

直接確認する人もいますが、多くは聞きづらいと思うはず。先生や保護者に相談し、必要に応じて削除依頼をしてもらいましょう。やられたからといってやり返すのは最低の行動です。

C. こんな投稿を見かけたら

SNSに知り合いの誹謗中傷を見かけたら、まずは当事者に知らせます。内容をうのみにし、あるいは面白がって、大騒ぎしてはダメ。SNSの通報ボタンを押すことも有効に働きます。

解説

迷惑行為や誹謗中傷は、そもそも禁止されていること

③にあったような悪口も含め、多くのSNSは、利用規約の中で迷惑行為や誹謗中傷を禁止しています。その内容に同意して利用登録をしたことを忘れず、ルールに則った使い方をさせることが一番重要です。

また、**他人になりすます行為**は、発言の責任を発言者ではない誰かになすりつけることになるため、それにより**なりすまされた人が傷ついたり、信用を失ったり**した場合、**名誉毀損等で訴えられる可能性**もあります。

「ネットなら誰が書いたかわからない」と勘違いしている子もありますが、警察が動くようなケースだけでなく、ネット上のさまざまな情報により**書き込んだ本人が特定できる場合が多い**ことも、しっかりと認識させましょう。

ワンポイント アドバイス

「デジタルタトゥー」と称されるほど、ネットに刻まれた情報は半永久的に残ります。未来の自分を苦しめることのないよう、正しい利用を！

5 個人や学校などへの脅迫行為

嫌がらせを呼び掛ける投稿をして



嫌がらせのつもりで、日時・場所を指定し、「友人Gを暴行しよう」とネットの掲示板で呼びかけたH君。もちろん、**実行する気などまったくありませんでした。**

投稿者が特定され、地域にも多大な迷惑



投稿を読んだ人が警察に通報し、警察はパトロールをすると共に掲示板への書き込みの記録などを調査。H君の投稿だと判明したことから、自宅に警察が……。

考えてみよう！

ネットでうっぷんを晴らそうとする人や、極端な投稿で注目されようとする人がいます。でも、脅迫や犯行予告とみなされれば犯罪となり、投稿者が逮捕されるケースもあります。

A. 通報により警察が動く

掲示板運営者や読者からの通報で、警察が捜査を開始します。警察は、警備・警戒のほか、投稿者特定も行います。「冗談のつもりだったのに」などの言い訳は通用しないのです。

B. 騒ぎが大きくなると

指定場所があると、周辺地域への迷惑は避けられません。公共機関なら警察の動員も増え、お店なら営業妨害に。発信した言葉の影響を考えることも抑止効果につながります。

C. こんな投稿を見かけたら

ターゲットが学校なら先生に、友人なら当人に、まずは一報。そして、警察ではなく掲示板の運営側に通報します。通報ボタンがあれば押す等、巻き込まれずに知らせる方法を！

解説 ネットやSNSなどへの書き込み、軽く考えないように

実行する気などなく、単なる脅しや悪ふざけのつもりだとしても、**脅迫めいた書き込みは、犯罪となるおそれ**があります。学校や駅などで事件を起こすといった、地域社会に大きな不安を与える書き込み等も同じです。

軽い気持ちで犯罪まがいのことを書き込むと、相手を深く傷つけるだけでなく、投稿者自身の大きな傷にもなるのです。ネットの匿名性をうのみにして安易に投稿しがちですが、基本的に、いつどこから書き込まれたのか、誰が書き込んだのか等は特定可能。善悪の判断ができなくなるほど冷静さを欠いた心理状態のときは、スマホやネットから一旦離れてみる……これが一番の安全策です。（気持ちの緩和方法はP 26を参照）

ワンポイントアドバイス

犯罪行為には警察が動くため、悪ふざけではすまされません。未成年でも発信責任は問われます。年齢に応じた内容で考えさせましょう。

6 アップロードとダウンロード

マンガを撮影し動画サイトにアップロード



I君は、愛読している人気の連載マンガを撮影して**動画サイトに投稿**。それをSNSでつぶやくと、多くの人が視聴し、感謝のコメントももらいました。

著作権法違反で自宅に警察が……



動画サイトの運営側から警告をうけましたが、好評なのでそのまま投稿を続けていたところ、I君は**著作権法違反容疑で逮捕**されました。

考えてみよう！

テレビ番組、映画、音楽、本、雑誌などを、許可なくホームページにアップロードしたり、動画サイトや写真サイトに投稿したりするのは、違法行為だと知っていますか？

A.関係者の権利を侵害する

制作会社、出演者、原作者、脚本家、アーティスト、作曲家、作詞家ほか、著作物には多くの権利が存在します。自分で買ったものでも、許可なく投稿すれば、権利侵害となります。

B.カラオケで歌う動画は？

「歌ってみた」「踊ってみた」などをよく見かけますが、カラオケ曲にも権利があります。歌っている動画を許可なくアップロードすると権利侵害になることがあります。（曲によって条件が異なります）

C.権利関係は複雑だから

違法だとわかっていることは、絶対しないこと。たまたま公開したものに運営会社から削除要請や警告があったら、「何で自分だけ？」と考えず従うこと。この2つがとても大切です。

解説

身の回りには、著作権や肖像権のあるもので溢れている

動画や写真を投稿するサイトは年齢を問わず人気ですが、**子供たちがさまざまな著作物を無許可でアップロードしてしまい、著作権侵害となるケースが生じています**。公開だけでなく、違法だと知りながら動画等をダウンロードすることも（個人で楽しむ範囲でも）2年以下の懲役又は200万円以下の罰金（またはその両方）が科せられる犯罪行為となります。また、**自分のSNSでプロフィール欄に有名人の写真を利用する、友人の写真や動画を許可なく掲載するといったことも肖像権等の侵害にあたるので十分に気をつけましょう**。

著作権フリーの曲や画像でも、利用の条件をしっかりと読み、規約に従った使い方をしなければなりません。

ワンポイント アドバイス

大人でも悩むほど、権利は複雑。少しでも不安があればやめ、注意を受けたらすぐに従うようにしましょう。興味があれば調べてみては？

7 自分で作成したウイルスをネットに公開

試しに作ったウイルスを公開したら



プログラミングが得意なJ君、自分の力を試そうといたずらでウイルスを作成し、他人のパソコン等への影響を知りたいと思い、ネットに公開しました。

ウイルス作成等の容疑で警察に



技術をほめてくれた人がいて喜んだのもつかの間、警察官が自宅に。不正指令電磁的記録作成等の罪になるということを初めて知りました。

考えてみよう！

単なる悪ふざけであっても、ウイルスを作って公開すれば犯罪になる可能性があります。プログラミングの力を認めてほしくても、やっていいことと悪いことはわかるはず！

A.不正指令電磁的記録?!

簡単に言えば、ウイルスのこと。正当な理由もなくウイルスを作成してサイトにアップすると、刑法上の「不正指令電磁的記録作成等の罪」の容疑を受けることがあります。

B.不正アクセスも当然ダメ

企業や施設などのサーバーに不正にアクセスし、逮捕された高校生もいます（不正アクセス禁止法違反）。どんなに能力があっても法令違反となるようなことをしてはいけません。

C.自分の力を試したいなら

技術を駆使して成果を得たいのなら、ウイルス駆除ソフトやゲームアプリのほか、人の役に立つものやみんなが楽しめるものを作りましょう。これなら、将来にもプラスになります。

解説

プログラミング技術は、みんなに役立つことに使うのが鉄則

プログラマーやエンジニアを目指す人だけでなく、論理的思考力の醸成にも役立つと言われるプログラミングですが、腕試しなどの軽い気持ちで技術を悪用したり、迷惑をかけるような使い方をする中高生もいます。

2020年度からプログラミングの授業がスタートしますが、学校で教わったことを応用する優れた力があっても正しい使い方をしなければ宝の持ち腐れ。罪に問われ、家族に迷惑がかかるだけでなく、（法令違反の事実がネット上に残れば）将来を台無しにする可能性があることを説いてください。プログラミングの技術とともに、その技術を自分にも世の中にもプラスに活かせる子になるよう、規範意識を育てることを忘れてはいけません。

ワンポイント アドバイス

プログラマーやゲームクリエイターは、子供たちのなりたい職業の上位。技術の習得が将来に役立つよう、正しい知識や考え方を育てましょう。

8 コミュニティサイトなどを使った未成年によるアプローチ

異性交際を目的に書き込んで



※ LJKは「ラスト女子高生(高校3年生)」を指す隠語

Kさんは、どうしても買いたいものがあり、お小遣いを稼ごうとSNSに「援助交際相手募集」のメッセージを隠語を使って書き込んでみました。

警察官に補導されてしまった



サイバーパトロールをしていた警察が、書き込みを発見。待ち合わせ場所に来た警察官に補導され、注意を受けて保護者に引き渡されました。

考えてみよう！

あらゆる情報がネットから得られるため、「欲しいモノ」や「やりたいコト」がいっぱい！お小遣いが足らなくて、違法行為に手を染めてしまうようなケースも生じています。

A. お小遣いの範囲で購入

〇〇さんがドラマで着ていた服、買えなかったライブのチケット、ゲーム攻略に必要なアイテムなど、情報過多で欲しいものは増えるばかり。優先順位をつけるクセをつけたいものです。

B. 衝動を抑えるには？

情報が入った瞬間に「欲しい」と思うのは、誰にでもあること。もっと情報を！と調べてしまうと、衝動は激しくなる一方です。深追いせず翌日考えるなど、一呼吸置くことが有効です。

C. 保護者に相談してみよう

コソコソ外出したり、急に服が増えたりすれば、家族も気づきます。危険な投稿に走らず、素直に保護者に交渉すること。保護者は頭ごなしに叱らず、一緒に解決策を考えましょう。

解説 危険な書き込みは、出会い系から非出会い系へとシフト

18歳未満の援助交際(金品目的の異性交際)は、児童買春・児童ポルノ禁止法で禁じられており、サイバー補導の対象です。「家出中、今晚泊まらせてくれる人募集」といった書き込みも、対象となりえます。出会い系サイトは18歳未満の利用ができない(出会い系サイト規制法)ため、SNSなどのコミュニティサイトを使うケースが急増しています。「JKビジネス」という言葉もありますが、散歩のように一見害のなさそうな行動でも「ダメなものはダメ」、条例で規制している地域もあります。ストーカー行為、恐喝、児童買春、誘拐などの犯罪に巻き込まれる可能性があり自分の身が危うくなることを認識させ、良識ある行動を促しましょう。

ワンポイントアドバイス

我慢を強いるより、欲求をコントロールする力を養うほうが役立ちます。「欲しい」「やりたい」を並べ優先順位をつけるよう提案してみましょう。

9 フリマサービスやオンラインショッピングでのトラブル

新品・未使用の服だから購入したのに



ずっと探していた服をフリマサイトで見つけたLさんは、商品タグがついている写真と“新品・未使用”という説明を読んで、サイズ等も確認して購入しました。

状態が悪い品が届き、返品もできない



商品が届いたので、受け取り中身を確認したところ、こすれた跡や黄ばみ汚れがあり、タグも見当たらず。返品の相談をしましたが、応じてもらえません。

考えてみよう！

豊富な取り扱い品や手ごろな価格設定などで、利用者が急増しているフリマですが、トラブルもいろいろ起きています。どんなことに気をつければいいでしょう？

A. 個人間取引は慎重に

〇〇さんがドラマで着ていた服、映画観賞券、レアな商品ほか、欲しいものがいっぱいあるフリマ。買いたい・売りたい気持ちをおさえて、細かなことまで確認することがとても大切です。

B. 個人情報の悪用を防ぐ

送料を節約しようと、名前や住所を知らせずに配送できるサービスを使わない人も多いようですが、住所・名前を悪用される、つきまとわれる、というトラブルも起きています。

C. 利用は保護者と一緒に

運営会社がしっかりしていてもフリマやオークションの取り引き相手は個人。「売れちゃう前に」というあせりは禁物です。子供は保護者の同意が必要、利用は一緒に確認しながら！

解説

子供の利用には、保護者の承諾・見守り・指導が不可欠

オンラインショッピング、オークション、フリマサービスの利用には、いずれも保護者の同意が必要。近くにお店が少ない地域では、子供に自由に利用させているご家庭もあるようですが、それは規約違反です。

フリマの利用者が急増し、商品が届かない、ニセモノだったなどのオンラインショッピング同様のトラブルだけでなく、個人間取引だからこそ生じる取引上の勘違いや情報不足による被害・加害も多発しています。

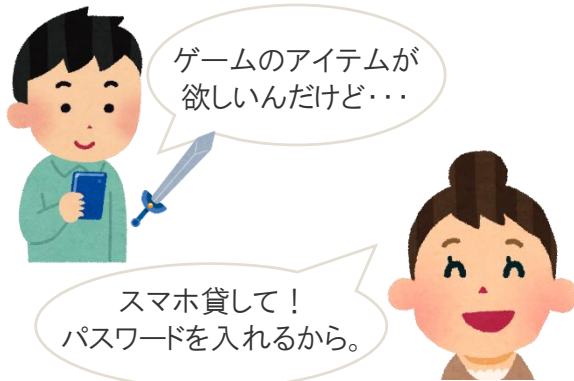
また、盗んだ物やウイルス情報の売買、お酒やタバコを購入、転売禁止のチケットを購入して入場を拒否された等、「してはいけないこと」を隠れて行うケースもあり、保護者の見守りが欠かせない状況です。

ワンポイントアドバイス

情報過多な時代、ネットには魅力的なモノの情報があふれています。自分をコントロールする力を育てることが、危険回避の第一歩です。

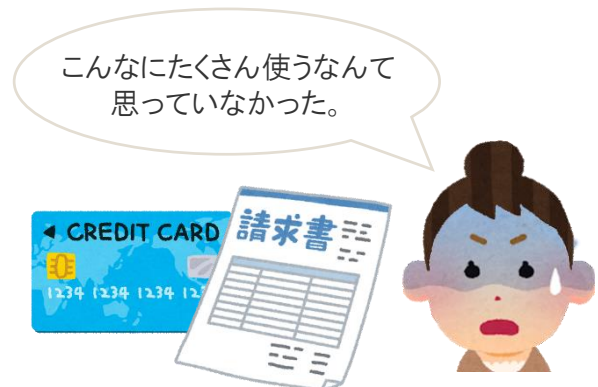
10 ゲームに夢中になっている最中に生じた高額課金

アイテム購入は数回だけだったのに



お母さんのスマホを借りて、ゲームを楽しんでいるM君。アイテムが欲しいときはお母さんに相談し、パスワードを入力してもらって購入していました。

請求書は10万円を超えていた



ある月、十数万円の請求が来て大慌て。スマホの認証方法を確認すると、パスワードを入力後30分間は再認証不要の設定になっていました。

考えてみよう！

子供から大人まで、多くの人を楽しんでいるオンラインゲーム。基本プレイは無料でも、有料アイテムがあった方が有利。でも、課金したいのなら使い過ぎ防止の工夫を！

A. お小遣いでプリペイド

コンビニなどでも手軽に買えるプリペイドカードを、お小遣いで購入して大切に使うのは良い方法です。ひと月の限度額を自ら決めることで、コントロールしながら使う力が身につきます。

B. 『ゲーム小遣い帳』をつける

保護者に許可をもらって使うのなら、その都度、何にいくら使ったかを小遣い帳につける方法がお勧め。現金ではなく目に見えないお金を使うので、見える化する有効です。

C. 個人情報の使用に注意

いろんなサービスに登録してポイントを稼ぐ人もいますが、個人情報を売ったようなもの。また、利用しなければ管理もできず、不正アクセスの原因になることもあるので要注意！

解説

クレジットカードやパスワードの管理と課金設定は慎重に

オンラインゲームには、ランキング、レアアイテム、キャンペーン、ガチャなど、競争心や射幸心をあおる演出を含むものがあり、それぞれは低額でも気付いたら思った以上の金額になっていることも。ゲームの課金に関する相談のうち、10万円以上の割合は成年より未成年者のほうが高く、9歳以下のケースも増加しているとのこと(国民生活センター調べ)。高校生以下には金額の上限があることを知って安心し、ゲームごとに決済方法がバラバラだったのに課金を重ねて高額になってしまったケースもあります。クレジットカードの管理責任は保護者にあります。パスワードの扱いや課金設定にも気を配り、無断で使わせないように工夫しましょう。

ワンポイントアドバイス

アプリ内課金を不可にする設定もあります。でも、年齢に応じて使える金額を決め、徐々に「自分でコントロールする」ことを体得させましょう。

11 自ら「ログインID」と「パスワード」を教えたことによる被害

他人にIDとパスワードを教えてしまい



N君は、ゲームを有利に進めるアイテムが欲しいのですが、ポイント不足で買えません。そのとき、「ポイントいる？」というメッセージが届きました。

パスワードを変更されゲームを乗っ取られた



ポイントもらえるならIDとパスワードを教えたら、パスワードが変更されたらしくログインできません。N君は、ゲームを乗っ取られてしまったのです。

考えてみよう！

パスワードが悪用されるトラブルは頻繁に起きていますが、自分で教えたケースばかりではありません。なぜわかるのか、知られたら何が起きるのか、想像してみましょう。

A. ペットの名前もアウト

自分の名前や誕生日のほか、好きなアイドルの愛称・誕生日、ペットの名前など、普段SNSで話題にしているようなものは避けましょう。自分の発信する内容を考えて決めるのが鍵。

B. 甘い誘いはワナと考えて

IDやパスワードは大切な個人情報、他人に教えてはいけません。パスワードを変更されてしまうとアクセスできなくなり、乗っ取りを阻むことも取り返すこともできなくなってしまいます。

C. たとえゲーム仲間でも

ゲームと一緒に戦って親切にしてもらったから、アイテムを本当にもらえると思って……と泣いても後の祭り。どんなに仲良しでも、IDやパスワードは教えない！を徹底させましょう。

解説

IDとパスワードさえ分かれば、誰でもアクセスできるようになる

ゲームのポイントやアイテムを奪われたり、アカウントを乗っ取られたり、ネット上に保存している写真を盗み見られてしまうなど、ゲームやSNSなどのIDやパスワードを他人に利用されて被害にあう人が増えています。

どんなに親しい相手でも、自分のIDやパスワードを教えるのはダメなのです。他人のIDとパスワードでログインすることは、不正アクセス禁止法違反にあたるのですが、ネット上のサービスでは現物が存在するわけではないため、盗む、無断で立ち入ることへの罪悪感が鈍ってしまう傾向があります。一緒に戦う仲間を信頼する気持ちを利用して、いたずら半分ですべてやってしまう子もいます。被害・加害、ともに注意が必要です。

ワンポイントアドバイス

乗っ取ったIDでその人になりすまし、知り合いをだますようなトラブルも増えています。自分のうっかりが、周囲に迷惑をかけることも忘れずに。

12 ワンクリック詐欺やウイルスなどによる不当請求

ウイルス感染しているというメールが届き



「ウイルス感染者に除去ツール配布」というメールを受信したO君。メールの中のリンクにアクセスし、急いでウイルス除去ツールをダウンロードしました。

パソコンのファイルが暗号化された



すると、O君のパソコン内にあるファイルが暗号化されてしまい、「解除して欲しければ、指定の金額を振り込め」という脅迫画面が表示されました。

考えてみよう！

必要な連絡や知人のメッセージという仮面をかぶった迷惑メールは増える一方です。見た目や内容にだまされないためには、どんなことを心がければいいでしょう？

A. 友人を装ったメールに注意

親しげな口調で、電話番号やメールアドレスの変更を知らせる迷惑メールもあります。こういったメールに用心すると共に、「自分が送るメールには名前を書く」等の工夫をしましょう。

B. 心当たりは不安のもと

一度でもアダルトサイトを見たことがあると「利用料請求」は気になって当然。不安要素となることは慎み、怪しいメールは発信元アドレスをチェック。ウイルス対策も忘れずに。

C. 発信元のなりすましも

ドメイン名（メールアドレスの@以下）をなりすます迷惑メールもあります。迷惑メールを振り分けるサービスやアプリもあるので、それらを賢く活用して、危険を回避しましょう。

解説 ファイルを人質に身代金を要求するランサムウェア被害も増加

親しい友人を装ったり興味を引く内容でメール内のリンク先へ導くワンクリック詐欺、有名な企業や行政機関あるいは取引先をかたるメールで、添付ファイルやダウンロードサイトに誘導され被害にあうことが多いウイルス。2017年には、ファイルを暗号化して解除と引き換えに金銭を脅し取ろうとする「ランサム（＝身代金）ウェア」が世界中に広まりました。個人のスマホをウイルスにより遠隔操作し、サイバー犯罪に利用する手口もあります。

その他、シャッター音を鳴らして撮影したように見せかけて脅すなど、やり口は多種多様で巧妙化しています。スマホの被害も多いのでメールなどに細心の注意を払って使い、OSやセキュリティソフトの更新も忘れずに！

ワンポイント アドバイス

セキュリティソフトの更新手続きを忘れて、ウイルス被害にあうケースも少なくありません。用心と更新はウイルス予防の両輪だと考えましょう。

13 不正アプリやウイルスによる個人情報漏えい

占いアプリで趣味嗜好を入力し

大量の迷惑メールが届くようになった



メルマガに掲載されていた無料の占いをしようとアプリをインストールしたPさん。好きなブランドや音楽など趣味嗜好を答えて占いをする方法でした。

すると、Pさんのスマホには続々と宣伝のメールが届くようになりました。その内容は、Pさんが占いの時に入力した好みに合ったものばかりでした。

考えてみよう！

占いに限らず、アンケートに答えるとポイントなどがもらえるキャンペーンもあります。入力した“自分の好みに関する情報”がどう使われるか、ちょっと想像してみましょう。

A. 興味を示す情報を送る

自分の好きな情報が送られてくれば、誰でも興味を示します。購入や利用をしてもらえそうな商品や有料サービスの広告を送るために、個人の趣味趣向を集める会社もあるのです。

B. 関連会社などに提供する

許可なく第三者に情報を売ることは違法行為ですが、「この情報は〇〇社と共有する」と記されていれば、そこに入力する＝共有の許可となります。条件はしっかり読みましょう。

C. PRメールが多くなると

情報を売買する悪質な会社もありますが、ルールに則ったメールも大量になれば一大事。重要な連絡の読み落としや、迷惑メールへの判断ミスなどを招く可能性も生じるのです。

解説

個人情報に関するアクセス許可や入力欄には要注意

アプリやサービスの利用登録をする際など、個人的な情報の入力を求められることもありますが、中には入力した氏名や住所、年齢、性別、メールアドレスなどを無断で二次利用したり、業者に売ったりする目的で作られた悪質なものもあるので要注意。新しいアプリやサービスを利用する際は、友人に聞く、保護者に見てもらい、ネットで調べるなど、複数の方法で評価をチェックし、安全性を確認した上で、公式ストアを利用しましょう。

また、ダウンロードの直前に表示される「このアプリにアクセス許可するもの」をしっかり読み、そのアプリに不必要な情報へのアクセス許可を求めているなどの不安があるときは、ダウンロードを中止するのが賢明です。

ワンポイントアドバイス

個人情報の提供で受けられる無料サービスは、安全なものばかりではありません。アンケートも同様、入力前に条件などを見直しましょう。

14 友人間で回すメッセージによる待ち伏せ被害

友人の間だけで回した内容だったのに



メッセージアプリで、学校の友人からボタンが回ってきました。Qさんは質問内容を読み、軽い気持ちで名前や年齢、学校名などを答えました。

ネットで知り合った人に待ち伏せされた



ネットで知り合った男性に待ち伏せされたQさん。以前その人にメッセージアプリのアカウントを教えたために、ボタンの情報が見られていたのです。

考えてみよう！

「仲間内のやりとりを、知らない人に見られていた」「プライベートな情報を、自分が知らない“友だちの知り合い”が見ていた」としたら、どんなことが起きるでしょう？

A. 公開範囲は設定した？

メッセージアプリは仲良ししか読めないから大丈夫だと思い、設定を確認せず使っている人がいっぱい。友だち追加設定のほか、タイムラインの非公開や公開範囲設定も忘れずに！

B. 誰かとつながる怖さ

見ず知らずの人とつながることによる危険はいろいろあります(8 17 18 19等)。知らない人を登録している仲間がいれば、「この子の友だちなら安心」と思われて、危険は広がります。

C. 読める人を想像して投稿

基本は、プライベートな情報をネットに載せないこと。どうしてもボタンをしたいなら、部外者が読めないところで！が鉄則。ネットのみの友人が欲しくても、個人情報への投稿には要注意。

解説 バトンの内容、読めるのは本当に親しい友人だけ？

メッセージアプリのタイムライン(日常のつぶやきを投稿できるサービス)などを利用した「ボタン」というものがあります。ボタンとは、定型の質問に答えながら次の人へと回していく遊びのようなもの。一般的なチェーンメールとは違ってもともと悪意はないのですが、公開範囲設定をしていなければ、友だち登録しているすべての人が読めるため、トラブルに発展することも少なくありません。

①身近な友人同士でも個人情報に安易に答えない・回さない ②ネットで少し話して友だち登録した相手は、タイムラインを非公開にしておく ③非公開の内容は口コミやスクリーンショットをしない を徹底しましょう。

ワンポイントアドバイス

コミュニケーション系アプリの多くは、読んでもいい人の設定ができます。設定の状態を確認させると共に、個人情報の扱いへの注意喚起を。

15 旅行中の写真投稿や書き込みによる空き巣被害

旅行先から写真をアップしたら



夏休みに、家族旅行に行ったRさん。仲良しへの暑中見舞いを送る代わりに・・・と思い、**旅先から写真やメッセージを自分のSNSに投稿**しました。

自宅が空き巣に荒らされていた



帰ったら、家の中がグチャグチャ！留守にしている間に空き巣に入られてしまったのです。**投稿内容から不在が知られてしまい狙われた**とのことでした。

考えてみよう！

日常の出来事や楽しい思い出を、仲良しと共有したいと思う人も多くなりました。でも、**投稿したものが予想外のトラブルを生む可能性を、想像したことはありますか？**

A. 仲良しに知らせたいなら

非公開のグループトークや、SNSの非公開アカウントを賢く活用すれば、許可した人だけしか読めないで安心です。勝手に転載しない！をみんなと約束するのも欠かせません。

B. どうしても公開したいなら

「いいね」が欲しくて公開する子に、とがめるだけでは効果なし。**16**のような危険も考え、どんな工夫が有効か検討しましょう。スタンプやボカシをうまく使う、公開は帰った後に、なども○。

C. 悪い人が読む可能性も

留守だとわかれば空き巣に、ブランド小物を毎日持ち歩くとわかればひったくりに、etc...何が伝わると誰に狙われるか、あれこれと想像してみることもトラブルの予防に役立ちます。

解説

誰でも読める投稿内容は、犯罪に利用されることも

夏休み、お正月、ゴールデンウィーク・・・旅行にでかけることも多い長期休暇や連休ですが、**リアルタイムでSNSに投稿すれば、「今、自宅は誰もいません！」と留守を公言しているようなもの**。メッセージアプリのタイムラインへの投稿も同様、友だち限定にしていなければ誰でも読むことができちゃうので要注意です。

SNSがきっかけの空き巣被害も深刻ですが、「一人で留守番」が憶測できる投稿も危険です。**なにげない投稿が取り返しのつかない事態を招かないよう、送信前に必ず読み返す習慣をつけましょう**。また、非公開でも読んだ人のうっかりで人目にさらされることも。誰が読んでもいい内容に留めるのが、一番安全な方法です。

ワンポイントアドバイス

自分の投稿が、悪い事をしようとする人の目に留まることだってある。これを意識できるようになれば、安全確認をする子も増えるはずです。

16 SNSなどへの投稿内容から個人が特定

友人とシェアするつもりで写真を投稿し

付きまといを受けるようになった



友人と海に行ったSさん。友人にスマホで撮ってもらった写真が気に入り、**親しい人たちとシェアしよう**と思って、SNSに写真を投稿しました。



後ろに誰かいるような気配、写真をアップしてからよね...

数日後から、Sさんは下校時に後をつけられている気配を感じるようになりました。**投稿した写真で個人が特定**されてしまったことが引き金でした。

考えてみよう！

SNSや写真投稿サイトほか、写真や動画を公開できるサービスはいっぱいありますが、**自分の身を危険にさらさないために、どんなことに気をつけたらいいでしょう？**

A. 指紋さえわかる高画質

カメラの性能が高まり、ピースサインから指紋が判別されることもあるとか。指紋がわかるくらいなら、背景に写る看板や文字なども簡単に読めるはず。今まで以上の注意喚起を！

B. ターゲットにされたら大変

ネットが情報収集に役立つのは、悪い人にとっても同じこと。過去の投稿や友人の投稿を組み合わせれば、個人情報を書かなくても特定されてしまう危険性があるのです。

C. もしも不安を感じたら

自分のサイトに気になる投稿があった、知らない人に突然名前呼び止められた、他、不安を感じたときは必ず大人に相談すること。できるだけ、誰かと一緒に行動しましょう。

解説

写真の中の建物や地域の行事でも生活範囲は憶測できる

子供・若者は、SNSなどを利用する際の個人情報の取扱いにルーズな傾向があります。基本的に、誰でも見ることができるのがSNS。たとえ限られた友人間のやり取りだとしても、**会話の中に名前や住んでいる場所、学校名などがあれば、写真を載せただけで個人が特定されてしまい、非常に危険**です。写真に写り込んでいるもの以外にも、訪れた店や地域の行事などの話題は生活範囲が憶測できるので注意が必要です。

また、友人が写っているものを投稿すれば、(たとえ投稿の許可をもらっていても)その友人を同じ危険にさらすこととなります。投稿サイトで人気の人の多くは、用心しながら公開していることを知っておくべきです。

ワンポイントアドバイス

アップする前に、写真も動画も自分以外に写っているものを確認！ハッシュタグ(#)をつけず、不特定多数の閲覧を減らすのも一案です。

【注】ハッシュタグは、SNSで自分の投稿をカテゴリ化して検索されやすくするキーワード。#をつけるとハッシュタグだと認識されます。

17 SNSやネットで知り合った人による性犯罪被害

SNSでは趣味が合う良い人だったのに



Tさんは、同じアイドルのファンの女の子とSNSでよく話をしていました。ある日、「ライブのチケットが余分にあるから一緒に行こう!」と誘われました。

実際に会うと見知らぬ怖い人だった



ライブ当日、待ち合わせ場所に行ってみると、SNSの写真とはまったく違う男の人で、チケットの話もウソ。無理やり車に乗せられそうになりました。

考えてみよう!

共通の趣味の人、同じ有名人やキャラクターのファンと知り合えることも多いネット。でも、それがきっかけでトラブルや犯罪に巻き込まれることも。なぜだと思いませんか？

A. 年齢、性別、写真のウソ

ネットに偽りの投稿があることは知っていても、ネットで知り合った人を疑わない。これは、身近な友人ともネットで会話するようになってしまったことが大きな要因と考えられます。

B. 話が合う≠信用できる

趣味が同じでも、楽しい会話はずんでも、良い人とは限りません。だますなら、同じ趣味を装い、話を合わせるくらいはするはず……これを意識しながら使うことが重要なのです。

C. 一人で行くことの危険

「写真どおりの人だ」と思っても背後に悪い人がいて、被害にあうケースもあります。ネットのみの交流に留めておくのが最も安全ですが、それ以外の方法も話し合ってみましょう。

解説

SNSやネットで知り合った人は、想像とは全然違うことも

「同じ趣味や話が合う人に悪い人はいない」と考え、実際に会ってみたいと思う青少年が増えています。でも、相手が本当のことを言っているとは限らず、**会ったために事件やトラブルに巻き込まれるケースは年々増え続けています**。また、彼氏・彼女にあこがれる年齢になると、「読者モデルをしているイケメン」や「可愛くて好みのタイプ」のような相手だと、想像がどんどん膨らみ、疑う気持ちを持ってなくなってしまう可能性も。

SNSでの交流はウソやワナばかりではありませんが、危険がいっぱい。気の合う仲間や理想の友人が欲しい思春期の複雑な気持ちを理解した上で、**思い込みが深まることを自覚させ、他の方法で確かめることを促しましょう**。

ワンポイントアドバイス

リアルな生活だけでは出会えなかった人と知り合えるようになった今、男女共に、投稿内容の過信は危険だということを再認識させましょう。

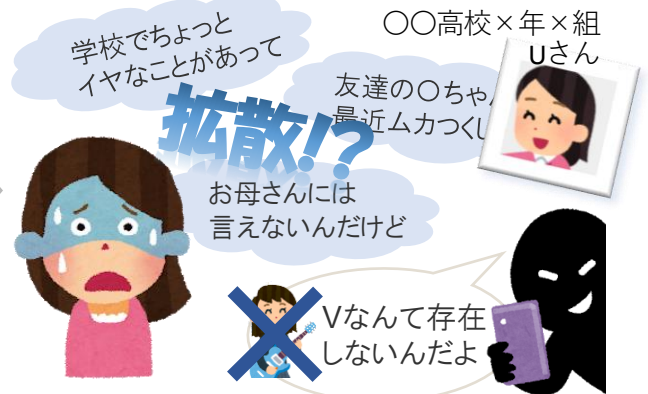
18 自撮り写真の交換に端を発した脅迫被害

同性のステキな友達だと信じていたのに



好きなアーティストの話題で意気投合した同じ年のVさんと直接やり取りを始めたUさん。やがて、誰にも言えない秘密も打ち明けられる仲になりました。

写真を送ったら態度が急変、脅迫された



Vさんの写真が届き、嫌われたくなくて自分の写真を返信した途端、写真付きで秘密をネットに拡散されたくなければ裸の写真を送れと脅されました。

考えてみよう!

優しい言葉で油断を誘い、信用させ、個人情報や写真入手して「ネットにばら撒く」「学校に知らせる」などと脅す。こんな被害にあわないために、できることは?

A. 撮影・送信・所持も違法!

18歳未満の裸&それに近い写真は、児童ポルノ禁止法で

- 撮影するのは「製造違反」
- 送信することは「提供違反」
- 持っているだけで「所持違反」として罰せられるのです。

B. 善人は違法な要求をしない

「撮って送ってくれる? 大事に持ってるから♡」は、違法行為をしようという意味だと判断しましょう。また、普通の顔写真でも個人情報と一緒になら脅すネタになりうるので要注意です。

C. 深みにはまってしまう前に

SNSをやめれば被害は避けられますが、安全利用の練習ができません。文や写真は偽装可能であること、送ってしまえば取り戻せないことを忘れずに、困ったら迷わず大人に相談を!

解説

言葉巧みに近づく人を見える情報だけで判別するのは不可能

政府インターネットテレビでは、実際の事件を基にしたドラマ仕立ての動画を公開しています。悪意ある大人の巧妙な手口を、動画で疑似体験できますので、ぜひ参考にしてください。

自撮り被害児童のほとんどは中高生。仲良くなりたと思わせ、個人情報を聞き出し、写真を送らせて脅す手口の一部始終を、じっくり考えながら視聴し、時間をかけて真剣に話し合ってみましょう。



ワンポイントアドバイス

実情を知り、「自分だけは大丈夫」と思わない。
”直接”写真をやり取りしない&秘密を話さない。これが安全の鍵です。

19 心のよりどころだったSNS上の知人による誘い出し

ネットで出会った相談相手に会いに行き



そのまま連絡がつかなくなってしまった



※ DMは「ダイレクトメッセージ」。SNSの画面上ではなく、直接メッセージをやりとりすること。

辛いことが続き、SNSにつぶやいていたWさん。
気持ちが落ち着くメッセージをくれる人に出会い、
DMでやりとりするうちに、会いに行くことになりました。

出かけたきり家に帰ってこなくなり、警察に相談。
誰にも言わずに会いに行ったことは、Wさんの
SNSの記録を確認して初めてわかったのです。

考えてみよう！

ネットだけの交流では、顔、姿、気持ち、メッセージ、どれも本物かどうかわかりません。それなのになぜ、ネットで知り合った人を信じたり頼りにしたりしてしまうのでしょうか？

A. 本当は誰に聞いてほしい？

- 気持ちを察してくれる友人
- じっくり話を聞いてくれる家族
- 何でも相談したいと思える先生がいてもネットで相談しますか？身近な誰かに寄りかかりたいと思う気持ちを失わないで！

B. 知らない人のほうが便利？

自分を直接知っている人と、ネットだけでやり取りしている人。優しい言葉をかけられて嬉しいのはどっち？ネットなら余計な詮索をされずに済み、都合がいいだけではありませんか？

C. どうしてもSNSを使うなら

本当に親身になってくれる人もいますが、上辺だけの人も山ほど。どうしてもSNSに頼りたいのなら、「深入りはしない」「DMを警戒し、個人的なやり取りはしない」を徹底しましょう。

解説

成長過程で生じる不安定さとリスク志向が利用される危険

多くの子供がSNSを活用し始めるのが、仲間との関係が大事で、かつ、悩みもモヤモヤすることも多い思春期の頃。感情の行き違いはしばしば起こり、辛さやイラ立ちなど、リアルな生活で受けた精神的ダメージをネットにぶつけることで自分の気持ちをコントロールしようとする子も少なくありません。

でも、そんな心理状態や判断の甘さを知って、近づいてくる危険な大人もいます。ネットの向こう側のいい人が悪い人かもしれないことを知りつつ、リスクよりもそのときの感情を優先させてしまう時期。ネットで知り合った人に深入りしないよう「ここまで！」の限界を話し合い、意識して使うことの安全性を理解させましょう。

ワンポイント アドバイス

ネットの向こう側に救いを求めたがる時期。子供の言葉に耳を傾け、気持ちに寄り添い、相談できる関係を保つことが最善の予防策です。

17 18 19 の危険を回避するために

「ネットで知り合う人」とのやり取りに関して
多角的かつ真剣に考えてみましょう

SNSなどのコミュニティサイトを介したやり取りは
楽しさだけではなく、“危険”もいっぱい！

『出会い系サイト』が法律で規制されて以来、特殊なサイトではなく、SNSなどごく普通のコミュニティサイトでのやり取りがきっかけで被害にあう子供が増え続けています。物心つく前から身近にデジタル機器があった高校生以下の世代にとって、SNSによるコミュニケーションは「会って話す」ことや「電話で話す」ことと同じ感覚ですが、大きな違いは**相手を目と耳で確かめることができないこと**。趣味や話の合う人も、同世代の同性の仲良しも、優しく寄り添ってくれる年上の人も、画面から得られる文字情報・写真・動画が真実とは限りません。

「そんなことわかってる！」と言いますが、「フォローしてくれたのにフォローを返さないのは悪い」「DMをもらって無視するのは気まずい」と徐々に近づいてしまい、相手の思惑に引きずり込まれてしまうケースもあるのです。

心や体に生涯消えない深い傷を負うばかりか、生命にかかわるような凄惨な事件も起きています。被害は、SNSの使い方も判断力も比較的高いはずの高校生が最も多いことから**「被害にあう人が特殊なだけ。自分は大丈夫」と思わないことが重要**。取り返しのつかないことになる前に、SNSの使い方をいま一度見直しましょう。

※ DMは「ダイレクトメッセージ」。SNSの画面上ではなく、直接メッセージをやりとりすること。

自分を守るためにできること ①

まずは普段使うSNSの設定を確認！

- ◆ アカウントの公開・非公開
 - ◆ 自分の投稿を読んでいい人の範囲設定
 - ◆ 自分がDMを受け取れる人の範囲設定
 - ◆ 自分の画像へのタグ付けに関する許可設定
- ほか、プライバシーやセキュリティに関する設定を確認しましょう。もしもアカウントが複数あるなら、それぞれの用途に合う設定を行い、使い分けの徹底を！（機種変更等の際は設定を要確認）



自分を守るためにできること ②

できるだけリアルな相談と発散を！

- ◆ イライラしたときは、スマホを置いて深呼吸
- ◆ グチは声に出して言う（人に話すのも有効）
- ◆ 気持ちを（スマホではなく）ノートにひたすら書く
- ◆ 好きなことをして、気分を変える、発散する
- ◆ ____時を回ったら、それ以上考えずにまず寝るなど、自分なりの“アナログな解消法”をいくつか考えておきましょう。そして、何かあったらネットに頼る前に、家族や先生やリアルな友人に相談を。



自分を守るためにできること ③

どうしてもネットでのやり取りをしたいときのために「ここまで！」を決める

ネットに気持ちをぶつけても、現実に戻った途端にぶり返す可能性が。それでもSNSに寄りかかりたいと思うなら、弱った心に付け込まれないよう、これ以上踏み込まない限界と対処法を決めておきましょう。

- ☑ 普段いつも発信しているアカウントには、**深刻なこと、プライバシーに関することは、書き込まない**
- ☑ SNSで話をした人から急にDMが届いたら「ありがとう、あとはSNSで！」と返すなど、**DMを断ち切る**
- ☑ 時間が経つほど断りづらい！イヤなこと、不安なことは「どうしよう...」と**迷ったら、すぐ＆ハッキリ断る**
- ☑ しつこく誘われたり脅されたりしても、**決して応じず、独りで抱え込まず、身近な大人に相談する**
- ☑ 周囲に相談しづらいとき、相談できる人がいないときは、**警察や専門の窓口**に相談する勇気を持つ※



※ 下記『各種相談窓口』（内閣府：ネットの危険から子供を守るために）をご参照ください。
http://www8.cao.go.jp/youth/kankyounet/internet_use/soudan.html

2018年度総務省調査研究「インターネット利用におけるトラブル事例等に関する調査研究」

- 発行者 総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 青少年担当
〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
- 請負者 株式会社JMC
〒153-0061 東京都目黒区中目黒1-8-8 目黒F2ビル
- 監修 尾花 紀子 ネット教育アナリスト
安心ネットづくり促進協議会「普及啓発広報委員会」副委員長
内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」委員 ほか
西田 光昭 柏市教育委員会 教育専門アドバイザー